

意見交換会開催結果

開催日	平成31年4月22日(月)	開催場所	和泉市コミュニティセンター 1F 大集会室
-----	---------------	------	--------------------------

【出席者】 (順不同) 参加団体 7団体 10名

Aグループ

黒田委員、笠井委員、小泉委員、緑ヶ丘世代間交流実行委員会、
青葉はつが野世代間交流推進委員会、女声合唱団「そよ風」、モア21、
四季の味覚祭実行委員会

Bグループ

湯川委員、青山委員、緑ヶ丘世代間交流推進委員会、
コーラスグループぶどうの木、青葉はつが野世代間交流推進委員会、
女声合唱団「そよ風」、和泉市ディスコン協会

【件名】 和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業 意見交換会

【開催の趣旨】

ちよいず（和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業）について、今年の団体募集で9年目を迎える。自分たちの活動の啓発や対象経費、本制度ができたことによる効果等について、当該事業に参加している市民活動団体同士が意見交換を行うことで、当該制度を充実させ、市民活動の活性化の促進に寄与することを目的として開催した。

【意見交換会方法】

参加者を2つのグループに分け、以下の検討テーマについて、ワークショップ方式で各グループが議論を行う。その後、議論結果について、各グループの代表者が発表を行い、判定会委員より講評を頂く。

【検討テーマ】

「活動内容の周知について」

以下の議論結果については、各グループから出た意見を集約しています。

【検討テーマ】 活動内容を広く市民の方に知ってもらうにはどのようなすべきか

[現状]

- ・ 申請が大変で心が折れる。
- ・ まだまだちょいずの認知度は低い。
- ・ 冊子だけでは活動内容が伝わらない。紙媒体は関心が薄く、内容を見ずに捨てられることもあるため、それ以外での働きかけも必要である。
- ・ 地域によって投票の格差がある。
- ・ 地域に根ざすと票が割れてしまう。
- ・ 規模が小さい団体は知ってもらうのが難しい。
- ・ 個人情報（住所、連絡先）を書きたくない人もいる。
- ・ ちょいず盛りあげ隊の活動が見えていない。
- ・ 自治会役員の高齢化により、準備設営に大学生の協力を要請して手伝ってもらっている。

[課題]

- ・ 自分と市民活動が関係があることを、市民に知ってもらうことが大切である。
- ・ 若い人を引っ張り込みたい。
- ・ 活動の対象の世代を広める。
- ・ 本当に魅力のある活動ができているのか見つめ直す。
- ・ 市役所との協働をより強化すべきである。

[改善方法]

- ・ 日頃の活動の中で広める。
- ・ 他の地域へ出前講座を行う。
- ・ グループを多くもつ。1つの活動だけでなく2～3活動をする。
- ・ 自治会報で自分たちの活動を発表する。
- ・ JCOM等メディアに取り上げてもらう。
- ・ 制度のPRを5月頃から行う。
- ・ 申請額を超えた分のお金の生かし方を団体に任ず。
- ・ ちょいずフェスティバルの時期を変える。前は2月で寒かったため。

[まとめ]

まず、申請が大変で心が折れるという意見が両グループで挙がった。途中で心が折れて辞めるということがないように、団体と市がより気軽に相談できる関係になっていくことが大切である。また、自分自身と市民活動が関係があることを市民に知ってもらうこと、制度自体の認知度がまだ低いこと、などが課題として挙げられた。こういった課題解決のためには、活動内容や制度の周知は必須である。現在紙媒体は関心が薄く、文字だけでは伝えきれない部分もあるため、出前講座を開く、日頃の活動の中で広めていくなど、直接PRすることが今後大切になるだろう。今回の意見交換会を通して、各団体がちょいずの名前と制度を広める心積もりで、日頃活動しているということが改めて分かった。

【各判定会委員の講評】

【青山委員】

ちょいずそのものの制度のあり方や仕組みの意見も出ていたと思いますが、本日は一番感じたのは、前半に意見交換会に参加する団体が少ないという話もありましたが、お客さんの立場の方が増えているという印象を色々な場面で感じています。地域の行事でも、皆様が日々、時間と労力とお金まで持ち出し

て活動をしていることが伝わっていないのではないかと感じています。ご自身の活動の魅力や効果をたくさん語っていただいています。これからはもう少し、皆様がなぜ活動しているのか、和泉市をどんな街にしたいのかを見せていただく必要があると思いました。しかし、それは押し付けがましくなるので言いにくいと思います。そこで、我々のような中間支援や行政、そういう立場の人達が皆様に語ってもらえるような場面を増やしていき、次世代に向けて、こういう風に街への思いをもって活動してくれている人が当たり前ではないということ伝えていく時期に来たと思います。皆様には、是非その時に発信していただいて、ご協力いただけたらと思います。

【笠井委員】

これで10回目くらい参加していますが、今回は参加団体が少なくて寂しいですが、その分濃い貴重な意見がいただけたかと思っています。1点心に響いたのが、自分の団体の魅力を語るのは当たり前ですが、それと合わせてその都度ちよいずの名前と制度を広めていく心積もりで活動しているということです。その精神を見習えばもっとちよいずが広がるのではないかと思います。

【小泉委員】

参加者が少ないというご意見や、意見交換会をするのは良いが、全くその意見のフィードバックがないのではないかと指摘があり、ここに集まって来ていただいている方は本当に熱心に日常から活動に取り組みされていて、行政としても意見を拾っていかうと思います。主体は皆様方、市民なのですが、そこを我々の行政がどう協働していけるかということも一緒に考える必要があると思いますので、こういった意見交換会の場に出た意見を今後も我々がこういう風に意見交換を重ねながら、より良いちよいず制度を築き上げていくのが非常に大切だと思っております。最近特に届出率を上げるということを目指して頑張っています。これからの行政にとって市民活動が本当に大切だと実感しております。行政で出来ることが少なくなってきていて、今後少子高齢化が進む中で市民活動の重要性が分かってくると思いますので、その辺りを行政としてもっと皆様と一緒に市民に周知していきたいと思っております。

【湯川副会長】

盛りあげ隊の活躍を通して皆様仲良くなられたのかなということが伝わってきました。こういう方達がちよいずの制度の中、立ち上がってきたことが成果だと感じています。今後、お互いの活動内容も詳しく知ることができ、どう広めたら良いかということで、37団体のことをよく調べたと思います。この校区に働きかけたら良いのではないかなというような市民活動の濃淡というのが見えてきたかと思えます。今後も市民活動を広めていくためにはどうしたら良いかというの、仲間ができたなら心強いと思えますので、そういった取組みもちよいずを広めていく感覚で活動していただけたら良いかと思っております。

本日一番印象に残ったのが、関心が薄れていっているということで、自分達に関係のない所に皆様がいてしまうという市民の方もいるなかで、もしかしたら37団体の中でもそういうことが起こっているのかなと思うと、それも寂しい話だと思っていて、これから色々な市町村がどんどんしんどくなっていく中で、私は行政だから、私は市民だから、私はNPOだからと言っている場合ではないと思えます。いかに巻き込んでいくか、一緒に和泉市をどう盛り上げていくか、どう作っていくかということも話し合う関係性を考えていきたいと思えました。

【黒田会長】

沢山のご意見をいただきまして、これを活用させていただきたいと思えます。グループでは課題で意見が出ていたが、役所との協働の仕方をどうすべきかだと思います。和泉市をはじめ、大阪府や、近隣の市町村に市民活動に限らず色々な委員をしています。色々な行政職員の方と会うことがあります。年配の職員の方が言うには、昔はもっと市民の方と話をしながら色々なことを考えたり作ったりしてきたそうですが、最近の若い人達は、行政のサービスの提供窓口であって、そつなくクレームが来ないように市民対応をするし、市民側も市役所に何か求めているわけでもなく、言ったら何かやってもらえた

ら良いかな程度の関係性であって、なかなか一緒に考えていったり、作っていくことが行政側にも市民の側にも少なくなってきたと思います。本日意見交換した内容をどうやって制度に取り入れていくのか、条例改正までいくかは分かりませんが、どう制度の改正につなげていくか、どう運用を上手くしていくことが出来るか、窓口でどう対応したら解決できるか、もしくはどこかの部分は市民の方に協力していただくか、自分達と一緒にやっていくか等、いただいた意見を何らかの方法で活用したり改善したりするところに面白みがあると思います。是非行政の方も市民の私達もどうこれから関わっていったら、この状況を良くしていけるかというのをお互いに考えていけたらと思います。今後とも色々な意見をいただいたものを参考にしながらよりよい制度としてやっていきたいと考えています。